

感動の場

『呪物』
1991年 小川原 脩 画

「陶」による立体造形作家・林雅治さんの展覧会がはじまります。その準備中、3つの不定形の塊が連結した林作品に見覚えがあるような気がして、小川原脩コレクションの冊子をめくりました。

これだ、と手を止めました。

本作、1991年に描かれた「呪物」という作品です。小川原脩が1981～83年にかけて旅したチベット・ラダックの旅では、標高4000^た級の峠を越え、各地の寺院を巡りました。道中で見掛けた石積み。それらをスケッチし、油彩画として完成させました。「呪物」はおどろおどろしい名にも聞こえますが、峠を越える旅人が、無事を祈り積み上げた、純粋な願いのためのものです。チベット文化圏ならではの白い矩形の建物が背景に広がる異国の風景の中に^{ただ}佇む3つの重なり。上の石は、長年人の手によってなでられ形作られたのか、滑らかな丸みを帯びています。それを見上げる小鳥の姿も印象的です。

まったく異なる種の生物が、生態に合わせ進化した結果、似たような姿形になることを生物学では「収斂進化」と言うそうです。小川原脩の、アジアの祈りの精神を投影した絵画作品。片や、目に見えない心の表出を試みた林さんの立体作品。まったく異なる方向性から、一見、形としては近づいて見える両者に、収斂進化の言葉をはじめて知ったときと同じ驚きを感じたのでした。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 副館長）



カエルににらまれるヘビ！？

来年はヘビ年なので、今回はヘビの話です。

恐怖で身がすくみ動けなくなる様子をたとえて「ヘビににらまれたカエル」と言います。この言葉から連想するのは、ヘビに出合ったカエルが一方向的に捕食されるイメージです。しかし最近、実はカエルが動かないのは身がすくんでいるのではなく、逃げるチャンスを見極めているから、という研究結果が出されました。

飛び掛かって襲うヘビも、飛び跳ね逃げるカエルも、ある程度の「溜め」を必要とする直線的な動きをします。隙ができる溜めが必要な上、相手に読まれやすい直線的な動きとなれば、失敗した時のリスクは大きなものになるでしょう（ヘビはカエルに逃げられ、カエルはヘビに食べられる）。長い時間にらみ合うのは、いわゆる後の先を互いに狙った結果ということです。このにらみ合いは、時に1時間ほど続くこともあるようです。これまでにらんでいるばかりと思っていたヘビが、カエルににらまれ動けなくなっていたとは、面白いですね。

食う・食われるの関係を何万年と続けてきたヘビとカエルの共進化。自然の奥深さに驚かされます。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）



シマヘビ（幼蛇）

ふるさと探訪

500回

展覧会のお知らせ

■第1展示室

開館25周年記念第66回麓彩会展

1958年、小川原脩をはじめとする8人の発起人により創設された「麓彩会」。倶知安にゆかりのある作家たちの近作を通じて、多彩な美術を紹介します。

会期：開催中～令和7年2月2日(日)

■第2展示室

林 雅治展「WORK 土でつくるもの」

京都府出身の作家、林雅治さんが長年にわたり土を焼成し、研究を重ねた造形作品を紹介します。

会期：12月7日(土)～令和7年4月13日(日)



アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

ギャラリートーク

当館初となる屋内立体展の見どころを学芸員が楽しく解説します。

日時：12月7日(土)14時～14時30分

会場：第2展示室(無料)※予約不要 講師：沼田 絵美(副館長)

世界美術館紀行

パリにあるオルセー美術館に所蔵されているドガの作品を映像で鑑賞します。

日時：12月21日(土)14時～14時40分

会場：映像ルーム(無料) 講師：金澤 逸子(学芸スタッフ)

■ミュージアムコンサート

クリスマスミニコンサート

倶知安高校吹奏楽局によるソロ&アンサンブル演奏会を開催します。

日時：12月14日(土)14時～14時30分

会場：ロビー(無料)※予約不要 出演：倶知安高校吹奏楽局

■ロビー展示

第17回絵画コンクール「ふるさとを描こう」作品展

応募のあった作品、全190点をロビーに展示します。

日時：開催中～12月9日(月)※2日～6日は展示替えのため休館

会場：ロビー(無料)

「ふるさとを描こう」入賞者(町内分、敬称略)

ふるさと賞／ 豊福 祐李(東小2年) 北市 航也(東小3年)
豊福 聖(東小3年) 西尾 仁依菜(北陽小4年)
中谷 太一(西小5年) 中谷 心晴(北陽小6年)
大森 稀平(北陽小6年) 泉澤 大翔(俱中2年)
ロジャーズ 亜莉 シェー(俱中2年)

学 校 賞／ 北陽小学校・東小学校

◎入賞作品は町HPからもご確認できます



■ロビー・ギャラリー

冬期間に「ロビー・ギャラリー」(町内や近隣町村で創作活動を行う作家・愛好家の展示)を開催します。会期・出品作家など、詳しくは町HPをご覧ください。



ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)
高校生 300円(200円)
小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
入館は16時30分まで
※()内は10名以上の団体料金
12月の休館日 毎週火曜日、2日～6日は展示替え(美術館のみ)、31日～令和7年1月5日は年末年始(両館)

★20日～令和7年1月20日は冬休み期間のため、小中学生・高校生は美術館観覧無料

国際映画祭がやってきた

「北海道国際映画祭+倶知安」が、9月6日から8日の3日間、文化福祉センター大ホールで開催されました。

道内の市町村のうち、常設映画館がある街は13市町のみ。そのため、映画館のない7つの街で、地域の文化に根差した作品などを楽しんでもらおうという企画です。

内容の構成が、大好きだったかつての夕張の映画祭に通じるところもあり、週末の2日間、コンペティションの中編6本を含む13本の作品を鑑賞しました。中でも特にオススメしたい作品が「新根室プロレス物語」。涙と笑い、生きる活力をもらえます。機会があれば皆さんもぜひ！

今回の映画祭は開催の主旨も意義深く、内容も大変充実していました。もしまた倶知安で開催されたときには、さらに多くの皆さんに参加いただけたらなと思いました。

館長 福原 秀和